

佐々木潤之介名譽教授著作目録

著書

- 幕藩権力の基礎構造 お茶の水書房、一九六四年一〇月
- 大名と百姓 中央公論社、一九六六年四月
- 幕末社会論 塙書房、一九六九年一〇月
- 世直し 岩波書店、一九七八年七月
- 近世民衆史の再構成 校倉書房、一九八四年一月
- 幕藩制国家論 上 東京大学出版会、一九八四年一月
- 幕藩制国家論 下 東京大学出版会、一九八四年五月
- 増補改訂 幕藩権力の基礎構造 お茶の水書房、一九八五年五月
- 日本の豊かさを考える 岩崎書店、一九八六年四月
- 幕末社会の展開 岩波書店、一九九三年九月

編著

- 村方騒動と世直し 上 青木書店、一九七一年一月
- 村方騒動と世直し 下 青木書店、一九七三年一〇月
- 日本民衆の歴史 3 三省堂、一九七四年六月
- 日本民衆の歴史 4 三省堂、一九七四年七月
- 日本民衆の歴史 5 三省堂、一九七四年八月
- シンポジウム日本歴史11「幕藩体制論」 学生社、一九七四年八月
- 日本封建制の社会と国家(下) 校倉書房、一九七五年二月
- 大系日本国家史 三 近世 東京大学出版会、一九七五年一月
- 日本史を学ぶ 三 近世 有斐閣、一九七六年四月
- 技術の社会史 二 有斐閣、一九八三年五月

中世史講座 七 学生社、一九八五年四月
中世史講座 二 学生社、一九八七年三月
中世史講座 六 学生社、一九九二年四月

共編・共著

体系日本歴史 4 『幕藩体制』 日本評論社、一九七一年四月

新編日本史研究入門 東京大学出版会、一九八二年三月
日本中世史研究の軌跡 東京大学出版会、一九八七年四月
歴史における家族と共同体 青木書店、一九九二年一月

監修・分担執筆

村に生きる人びと 萩原隼太郎記念刊行会、一九七四年九月
日本の歴史 三 読売新聞社、一九八七年五月

学術論文

「木の間の村の歴史」 東大農村史料調査会編『近世農村の

構造』山川出版社、一九五二年一月

「近世産銅政策に関する一考察」(学部卒業論文) 一九五二年一月

「地主制展開の前提」 東大農村史料調査会編『新田地主の研究』山川出版社、一九五四年一月

「近世初期農村の展開」(修士論文) 一九五四年一月
「近世産銅政策についての一考察」(上)(下)『史学雑誌』六六一一、一九五七年一月

「幕藩体制下の農業構造と村方地主」 古島敏雄編『日本地主制史研究』岩波書店、一九五八年一月

「宝暦―寛政期における蚕種経営」 高橋・古島編『養蚕業の発達と地主制』お茶の水書房、一九五八年一月

「加賀藩制成立に関する一考察」『社会経済史学』二四―二、一九五八年二月

「幕藩制下基礎構造の研究」(博士学位論文) 一九五八年一月

「所謂『近世本百姓』―封建小農民自立の経済的条件」『史学雑誌』六八一―九、一九五九年九月

「大坂銅問屋・大坂屋についての覚え書」『研究と評論』三、一九五九年一月

「幕藩制の構造的特質」『歴史学研究』二四五、一九六〇年九月

「メツケルの日本鉱山観」 所三男編『具体例による歴史研

- 究法』、吉川弘文館、一九六〇年一〇月
- 「秋田阿仁鉦山の経営」 地方史研究協議会編『日本産業史大系 東北地方編』、東京大学出版会、一九六〇年一〇月
- 「幕藩制秩序の形成過程」 『社会学研究』IV、一九六一年三月
- 「幕藩制第一段階の諸画期について」 『歴史学研究』二六〇、一九六一年二月
- 「幕藩関係における譜代大名の地位」 『日本史研究』五八、一九六二年一月
- 「幕藩制における畿内の地位について」 『一橋論叢』四六一三、一九六二年三月
- 「藩家臣団の展開過程」 『社会経済史学』二八一、一九六二年八月
- 「譜代小藩の権力構造」 『歴史学研究』二六八、一九六二年九月
- 「軍役論の問題点」 上・下 『歴史評論』一四六、七、一九六二年一〇、一一月
- 「十六〜七世紀における『小農』自立過程について」 大阪歴史学会編『幕藩体制確立期の諸問題』、吉川弘文館、一九六三年一〇月
- 「近世農村の成立」 『岩波講座日本歴史』10、近世2、岩波書店、一九六三年一〇月
- 「幕藩制軍役の経済的基礎について」 “HITOTSUBASHI JOURNAL OF SOCIAL STUDIES” 2-1、一九六四年九月
- 「十七世紀における年貢の機能について」 『経済研究』六四一〇、一九六四年一〇月
- 「宝暦天明期の位置づけについて」 『歴史学研究』三〇〇、一九六四年五月
- 「成立期幕藩制の地域区分と農民的諸要求」 『日本経済史大系三』、東京大学出版会、一九六四年六月
- 「統一権力の形成過程・幕藩制国家の成立」 北島正元編『体系日本史叢書 政治史II』、山川出版社、一九五八年八月
- 「宝暦期の位置づけについて」 『歴史学研究』三〇四、一九六五年九月
- 「日本の封建遺制について」 『現代日本の社会』、春秋社、一九六五年一〇月
- 「維新変革の現代的視点」 『歴史学研究』三二二、一九六七年三月
- 「村方騒動と寄生地主」 寶月圭吾先生記念会編『日本社会経済史研究 近世編』、吉川弘文館、一九六七年一〇月
- 「幕末期売込商の性格について」 『一橋論叢』五九一三、一九六八年三月
- 「ひとつの総括」 ほか 北島正元編『製糸業の展開と構造』 塙書房、一九七〇年三月

- 「統一政権論の歴史的前提」『歴史評論』二四一、一九七〇年八月
- 「八豪農論について」『一橋論叢』六四一五、一九七〇年一月
- 「世直しの状況」『講座日本史5 明治維新』、一九七〇年十一月
- 「検地と小百姓」『史論』二一・二二、一九七〇年一月
- 「統一政権論についてのノート」『歴史評論』二五三、一九七〇年八月
- 「天保中期の経営事情」『山崎教授還暦記念論文集』、一九七二年一〇月
- 「可正と西鶴について」『地方史研究』二三四、一九七三年八月
- 「諸産業の技術と労働形態」『岩波講座日本歴史』11、一九七六年八月
- 「鎖国と鎖国制」『歴史公論』二一四、一九七六年四月
- 「戦国大名の権力構造について」『歴史公論』三一四、一九七七年四月
- 「幕末の社会情勢と世直し」『岩波講座日本歴史』13 近世5、一九七七年五月
- 「世直し状況——その到達点と民衆の意識について」『歴史評論』三三二、一九七七年七月
- 「幕藩制の成立」永原・ホール編『戦国時代』、吉川弘文館、一九七八年二月
- 「伝統的鋳業技術の体様」国連大学 HSDRJE-24J/ UNUP-73 一九七九年二月
- 「地主経営の概要と論理」『一橋論叢』八三—三、一九八〇年三月
- 「幕藩制社会の成立」高橋幸八郎ほか編『日本近代史序説』東京大学出版会、一九八〇年三月
- 「日本における在来技術と社会」『国連大学研究報告』二一四、一九八〇年七月
- 「世直し騒動」『日本の思想』下、新日本出版社、一九八〇年一月
- 「幕末民衆の歴史的到達点とその意義」『信州史学』八、一九八二年七月
- 「幕末期河内の豪農」森杉夫編『政治経済の史的研究』、敝南堂書店、一九八三年三月
- 「銅山の経営と技術」『講座・日本技術の社会史』五、一九八三年九月
- 「封建社会論」『中世史講座』五、学生社、一九八五年三月
- 「東アジア世界と幕藩制」『講座日本歴史』5 近世1、東京大学出版会、一九八五年三月
- 「絶対主義化論について」『茨城県史研究』五四、一九八五年四月

『絶対主義化』論 『白山史学』二二、一九八五年四月

「序論」 『中世史講座 七』、学生社、一九八五年四月

「幕藩領主制と幕藩制国家」 『中世史講座 四』、学生社、一九八五年四月

一九八五年四月

「公と私の現在」 『講座日本歴史』13、東京大学出版会、一九八五年一月

一九八五年一月

「THE SOCIAL HISTORY OF TECHNOLOGY IN PRE-MODERN JAPAN」 『THE WHEEL EXTEND SPECIAL SUPPLEMENT』 NO. 16 1986 TOYOTA MOTOR C. 一九八六年六月

一九八六年六月

「十七世紀中葉、畿内河内農村の状況」 永原・稲垣・山口編 『中世・近世の国家と社会』、東大出版会、一九八六年

一九八六年

「序説」 『中世史講座 二』、学生社、一九八七年三月

「強訴・百姓一揆と騒動」 『日本の社会史 五』、岩波書店、一九八七年五月

一九八七年五月

「現代天皇制と近代史研究」 歴史学研究会編 『いま天皇制を考える』、一九八七年八月

一九八七年八月

「生産力発展と文化主体の形式」 『信濃』四〇―三、一九八八年三月

一九八八年三月

「慶長年間の石高と年貢」 永原・佐々木編 『日本中世史研究の軌跡』、一九八八年四月

一九八八年四月

「世直し・民衆的アイデンティティ」 『研究と評論』記念号、一九八九年一月

一九八九年一月

「内からの芽と外からの目と」 東北北海道シンポ編 『北からの日本史』②、三省堂、一九九〇年七月

一九九〇年七月

「地域史について」 『牛久市史研究』創刊号、一九九一年三月

一九九一年三月

「序論」 『中世史講座 六』、学生社、一九九二年四月

「日本史上の石見銀山」 『日本鉱山史からみた石見銀山』、大田市教育委員会、一九九二年一月

その他・学会報告／書評／動向／評論など

「回顧と展望」 『史学雑誌』六三一五、一九五四年五月

「藩政確立期の諸問題」 (大会報告) 社会経済史学会年次大会、一九五八年一〇月

「封建社会解体期の農村経済」 『明治維新史研究講座』一、平凡社、一九五八年七月

「研究動向 歴史学」 村落研究会編 『戦後農村の変貌』、時潮社、一九五八年一〇月

「藩政成立史の課題」 『歴史学研究』二二二一、一九五九年七月

「成立期『地主制』に関する二三の問題点」 『史学雑誌』六

「近世における家と村」 歴史科学協議会／原・佐々木編 『歴史における家族と共同体』、一九九二年一月

一九九二年一月

「牛久市史研究」創刊号、一九九一年三月

一九九一年三月

「日本史上の石見銀山」 『日本鉱山史からみた石見銀山』、大田市教育委員会、一九九二年一月

一九九二年一月

「序論」 『中世史講座 六』、学生社、一九九二年四月

「日本史上の石見銀山」 『日本鉱山史からみた石見銀山』、大田市教育委員会、一九九二年一月

「近世における家と村」 歴史科学協議会／原・佐々木編 『歴史における家族と共同体』、一九九二年一月

一九九二年一月

「回顧と展望」 『史学雑誌』六三一五、一九五四年五月

「藩政確立期の諸問題」 (大会報告) 社会経済史学会年次大会、一九五八年一〇月

一九五八年一〇月

「封建社会解体期の農村経済」 『明治維新史研究講座』一、平凡社、一九五八年七月

一九五八年七月

「研究動向 歴史学」 村落研究会編 『戦後農村の変貌』、時潮社、一九五八年一〇月

「藩政成立史の課題」 『歴史学研究』二二二一、一九五九年七月

一九五九年七月

「成立期『地主制』に関する二三の問題点」 『史学雑誌』六

一九五九年七月

八一六、一九五九年六月

『沼津市史』中巻 沼津市、一九五九年九月

「幕藩制社会の構造的特質」(大会報告) 歴史学研究会年次大会、一九六〇年六月

「幕藩制の構造的特質」(大会報告) 日本史研究会年次大会、一九六一年一月

「近世の社会と経済」遠山・井上編『日本史研究入門II』東京大学出版会、一九六二年一月

「最近史学雑誌に掲載された二つの文章について」『史学雑誌』七二一八、一九六三年八月

『秋田県史 資料 近世編』『秋田県史』、一九六三年一月

「批判と反省 藩政史研究編『藩制成立史の総合的研究』をめぐって」『歴史学研究』二八六、一九六四年三月

「いわゆる『日本史資料センター』問題について」『歴史学研究』二九八、一九六五年三月

『秋田県史 近世 上』『秋田県史』、一九六五年三月

「宝暦天明期の位置づけについて」(大会報告) 歴史学研究会年次大会、一九六五年五月

「軍役論」日本歴史学会編『日本史の問題点』、吉川弘文館、一九六五年一〇月

「大会への期待」『歴史学研究』三二〇、一九六六年三月

「維新変革の現代的視点」(大会報告) 歴史学研究会臨時

大会、一九六六年一二月

『八王子市史』下巻 八王子市、一九六七年三月

「今日の札差研究」『創文』五〇、創文社、一九六七年五月

「石高制」『日本史のしおり』五、山川出版社、一九六九年五月

「『名子』抜けについて」『国民の歴史』13 月報、文英堂、一九六九年一〇月

「農村史の視角について」『創文』八九、創文社、一九七〇年一〇月

「村方騒動と石代一件」『高校資料』三省堂、一九七〇年一〇月

「歴史を支えた人びと」『学生通信』三省堂、一九七〇年一二月

「歴史を支えた人びと」『学生通信』三省堂、一九七一年一月

「兵農分離と幕藩制についての二三の問題」『月刊東書高校通信』七九、一九七一年一月

「歴史と経済学」『経済』、一九七三年五月

「回顧と展望」『史学雑誌』八三―五、一九七四年五月

「ある元込商人の手紙から」『神奈川県史だより』、一九七五年三月

「幕藩制と天皇について」『遊行』三、一九七五年五月

シンポジウム参加「戦国時代」ハワイ日米シンポジウム、

- 一九七七年八月
「世直し状況論」(大会報告) 歴史科学協議会年次大会、一九八二年七月
- 「日本封建制講座と相川春喜」『相川春喜小伝』、一九七九年二月
- 「社会」科教育と社会科学について、『大学基準協会会報』四〇、一九七九年十一月
- 「解説」辻達也『田沼時代』(岩波文庫)、岩波書店、一九八〇年三月
- 「鉱山労働史の研究について」『歴史公論』五六、一九八〇年七月
- 「安保闘争のさなかに」学生新聞『私と資本論』、一九八〇年九月
- 「村木先生のこと」『教育時報』、秋田県教育委員会、一九八一年一〇月
- 社研入門講座「歴史と民衆」一一八 学生新聞、一九八二年六月八月
- 「社会科教科書執筆者懇談会」結成準備過程での報告『歴史学研究』五〇九、一九八二年一〇月
- 「社会科教科書執筆者懇談会」の発足『歴史評論』三九一、一九八二年十一月
- 「社会科教科書執筆者懇談会」の報告『歴史学研究』五一二、一九八三年一月
- 「一揆騒動史の方法について」『歴史評論』三九六、一九八三年四月
- 「日本近世史研究の現代的課題」『歴史評論』四〇〇、一九八三年八月
- 「社会史」と社会史について『歴史学研究』五二〇、一九八三年九月
- 「中数審査申『教科書の在り方について』を批判する」『教育』四二九、一九八三年九月
- 「一九八四年度歴史学研究会全体会報告によせて」『歴史学研究』五三三、一九八四年一〇月
- 「社会科教科書検定と教科書問題」『歴史地理教育』三七二、一九八四年一〇月
- 「近世史研究から明治一〇年代へ」(報告)自由民権百年第二一回全国集会分科会、一九八四年十一月
- 「心証と円形脱毛症」『ジュリスト』八三一、一九八五年三月
- 「社会科教科書と天皇」『法学セミナー』増刊号、一九八五年四月
- 「回顧と展望」『史学雑誌』九五―五、一九八五年五月
- 「日本封建制解体の特質」(共同報告) 第一六回国際歴史学会・STUTTGART大会、一九八五年八月
- 「歴史にまなぶことを学ぶ」『教育秋田』四四九、秋田県教育委員会、一九八六年一月

- 「地域を越え広く読まれた技術書」『国際協力』1986、国際協力事業団、一九八六年三月
- 「歴史書記局にいたころ」『歴史学研究』復刻版月報八、一九八七年六月
- 「教科書問題と前近代史研究の課題」北海道東北史研究会編『北からの日本史』、三省堂、一九八八年五月
- 「ブリックレ」『一五二五年の革命』(書評)『歴史学研究』五八七、一九八八年十一月
- 「寶月先生・農村史料調査会・木ノ間村」『信濃』一二一四八、一九九〇年十一月
- 「アイヌ問題について」北海道新聞、一九九一年七月
- 「歴史情報資源研究センター(仮)について」『歴史評論』四九五、一九九一年七月
- 「世直し状況論の現在」佐々木隆爾ほか『争点日本の歴史』、一九九一年七月
- 「序」『秋田の近代化遺産』、秋田県、一九九二年三月

- 「内山文書から」『福井県史だより』県史資料編七、一九九二年五月
- 「沼津市史の編纂について」『沼津市史研究』一、一九九二年六月
- 「世直し状況論の現在」『歴史地理教育』四九四、一九九二年十一月
- 「赤木さんから伊豆さんへ」『赤木健介追悼集』一九九三年一月
- 「読書ノート・遠山茂樹著『明治維新と天皇』」『科学と思想』八七、一九九三年一月
- 「『歴史』センター問題について」『歴史学研究月報』三九七、一九九三年一月
- 「技術史を歩く」『集英社日本歴史』別巻 集英社、一九九三年三月

(中小路 純)